

富山市定例市長記者会見（令和4年4月28日）

■冒頭

市長

皆さんこんにちは。

今日は、ゴールデンウィーク前ということで大変お忙しい中、皆さんお集まりいただきありがとうございます。

それでは定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。

■（仮称）富山市スマートシティ推進ビジョン策定に係る市民ワークショップ及び企業・団体ヒアリングについて

市長

本市では、ICT等の新技術の活用等により、コンパクトシティを深化させ、市民生活の質や利便性の向上を図る「富山市版スマートシティ」を実現するための指針として「（仮称）富山市スマートシティ推進ビジョン」の策定を現在、進めております。

このたび、広く市民や企業等の皆さまの声を本ビジョンに反映させることを目的とした市民ワークショップ及び企業・団体ヒアリングを実施する運びとなりました。

市民ワークショップでは、市民の皆さまが求める豊かさとは何かについて、参加者同士が対話を通じて考えていく、そういう場にしたいと思っています。そして、そこで出た意見を参考に本市が向上させるべき市民生活の質や利便性を指標化してまいりたいと考えております。

なお、開催日時及び場所等につきましては、お手元の資料に記載のとおりです。このうち、日程調整の結果、速星公民館で開催する際には、私も参加させていただく予定としております。

また、スケッチラボで開催する際には、希望があればC i Cビル内の子育て支援施設と連携し、無料の託児サービスをご提供いたします。子育て中の方にもぜひご参加いただきたいと考えております。詳しくは市のホームページをご確認ください。

次に、企業・団体ヒアリングについてであります。スマートシティの推進にあたり、具体のサービスのほか市として取り組むべき重点領域や推進体制、ロードマップについて検討するため、企業や団体を対象としたヒアリングを実施したいと考えております。

現在、市内外の企業・団体に、ヒアリングの参考とさせていただくための事前アンケートを実施しているという段階であります。このアンケート終了後に、ご回答いただいた企業・団体の中から、10～20の団体・企業をピックアップさせていただき、個別に対面やオンライン等でヒアリングさせていただきたいと考えております。アンケートの回答期限まであまり日が過ぎませんが、市ホームページ内から回答できるようになっておりますので、ぜひ、多くの企業・団体の方にご回答いただきたいと考えております。

今後、市民ワークショップで出たご意見や企業・団体ヒアリングの結果、有識者会議での専門家からのアドバイス、パブリックコメント等を参考にしながらビジョン策定を進め、今年度中に公表したいと考えております。

■富山に泊まってエンジョイキャンペーン事業について

市長

富山市では、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光・宿泊需要が低迷し、厳しい経営状態が続く宿泊施設や旅行会社の利用促進を図るため、4月28日から「富山に泊まってエンジョイキャンペーン第3弾」を実施することといたしました。

当事業では、市内宿泊施設での宿泊に利用できる1万円の宿泊割引クーポンを発行し、宿泊需要を喚起するものであります。キャンペーンは第3弾となります。今回は、利用対象者を前回2回の富山市民のみから富山県及び近県の石川、福井、新潟、長野、岐阜県民に拡大し実施いたします。

また、クーポン当選者を1万人に増やしました。市内宿泊施設や旅行会社の利用促進及び県外からの誘客を図ってまいりたいと考えております。

応募期間は、本日から5月31日までとします。利用期間であります、7月1日から9月30日までとしており、当選者には6月下旬までにクーポン券を送付しますので、その送付をもって発表に代えさせていただきたいと考えております。

この機会にぜひ多くの方々に富山市に訪れていただき、本市の観光を楽しんでいただきたいと思います。市ホームページや広報とやまでのPRのほか、利用対象県の新聞にも広告を掲載し、周知に努めてまいりたいと考えております。

■ 路面電車南北接続の効果検証について

市長

令和2年3月に完成しました路面電車の南北接続について、令和3年度に効果検証調査を実施しましたので、その結果をお伝えしたいと思います。

この調査は、南北接続後の利用状況や沿線住民の行動変化、沿線における従業員の居住地変化等について調査を行い、南北接続前の状況と比較検証を行いました。

主な調査内容としては、路面電車の全利用者を対象としたOD調査（人や物、自動車などが移動する始点から終点までを一体として把握する交通量調査）を実施するとともに、路面電車の利用者や沿線住民に対してアンケート調査を実施しております。

その検証結果につきましては、まず一つとして、令和2年の路面電車の利用実態につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、利用者数は約4,000人の減少となっております。令和元年が20,187人であったものが令和2年は16,001人というように、約4,000人の減少となっております。

なお、令和3年の富山港線における利用者数であります。平日・休日ともに南北接続前の水準を維持しております。ちなみに平日は、令和元年は4,770人でありましたが令和3年は4,650人、休日においては、令和元年は3,043人が令和3年では3,000人と、横ばいになっております。

また、令和3年の富山港線における通勤・通学利用者につきましては、平日・休日ともに約1.1倍に増加いたしました。休日の観光利用者は、約1.3倍に増加しております。

市内電車においても、平日の観光利用者は約1.1倍に増加しました。

続きまして、二つ目であります。令和3年の富山駅の南北を跨ぐ路面電車利用者についてであります。平日は約2.4倍、休日は約2.8倍と明らかに増加しております。

また、今回、お配りしました資料に記載はございませんが、路面電車利用者の満足度についてであります。運行本数、運賃、時間の正確さなど全ての項目において、満足度の平均が普通である、もしくは満足であるという回答をいただいております。

さらに、路面電車沿線住民の約8割が「路面電車沿線の住みやすさが向上した」、約9割が「路面電車沿線のイメージが向上した」、約7割が「まちなかのイメージが向上した」と回答していただいております。

市としましては、今回の調査結果により、市民100年の夢であった路面電車の南北接続は、中心市街地へのアクセスや回遊性が飛躍的に向上したものと捉えております。中心市街地の賑わい創出や商業活動の活性化など、多くの効果に寄与しているものと総合的に評価しているところでござい

ます。

今後、本市のコンパクトなまちづくりのネクストステージへ踏み出すための施策等に活用し、さらに活力ある都市を創造してまいりたいと考えております。

■報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

次に、新型コロナウイルスに対する感染予防対策についてであります。

明日からゴールデンウィークに入ります。体調が悪い方、あるいは体調が悪いと感じた場合は、外出や人と会うことを控えていただきたいと思います。また、従来から申し上げているとおり、基本的な感染予防対策を継続していただいております。

加えて、新型コロナウイルスワクチンの接種状況をお伝えしたいと思います。

新型コロナウイルスワクチンの接種状況であります。3回目となる追加接種を受けられた方は、4月27日現在で、214,901人となっております。全人口に対する接種率は51.9%となり、過半数を超えたところであります。

3回目接種の対象となる、2回目接種から6カ月経過した方に対する接種率としては、76.5%となっており、市としては、多くの方に接種していただいていると認識していますが、一方で若い世代の接種率は低い傾向となっておりますので、ぜひ若い方々にも早めの接種をご検討いただきたいと思います。

なお、報道等で伝えられている4回目の接種であります。政府が発表しているとおりに重症化予防を目的として4回目接種を（実施する）ということになります。接種対象者は、3回目接種を終えた60歳以上の方及び18歳以上で基礎疾患を有する方、その他重症化リスクが高いと医師が認める

方ということであり、3回目接種からの間隔は5カ月以上と聞いております。

このあと、本日14時30分から、国の自治体向けの事務説明会が開催されます。その内容を踏まえ、本市の医師会をはじめとした医療関係者、関係機関等とも連携しながら、具体的な進め方等を早急に検討のうえ決定し、皆様にわかりやすく情報を提供してまいりたいと考えております。

以上であります。

■ 質疑応答

記者

小中学校再編に向けた各地域での説明会が4月18日から始まりました。地域側から出た意見や反応について、市長はどのように受け止めていますか。

また、各地域で2回目の説明会を開く、市長部局も説明会に参加するなど、現時点で必要と考えている取り組みがあれば、お聞かせください。

市長

いまほど(ご質問に)ありましたとおり、4月18日から各地へ出向いて、説明会が始まっております。5月末までに13ブロックにわけて、各地で開催すると伺っております。

教育委員会から聞いている話では「学校をなくしてほしくない」、「地域の衰退につながるのではないか」、「通学距離が長くなるので危険である」といった様々な心配の声が寄せられていると伺っております。

教育委員会に対しては、しっかりと丁寧の一つ一つ(ご意見等を)お聞きして、答えを返すべきものはしっかりとお返しして欲しいと要望しております。

また、避難所や学校開放などいろいろな用途で使われていますので、地

域住民の方々にとっては、体育館やグラウンドも含めて大事な施設であります。そういうことは、教育委員会としての所管ではない部分もありますので、しっかりと市長部局に対する要望や質問として市長部局で受けとめて、答えをお返ししたいと考えております。

とにかく丁寧に議論を進めるということが大事であります。そして、すぐに統合ということではなく、しっかりと時間をかけて、お互いの理解を深めていくということが大事だと思っていますので、そのように進めていきたいと思っています。

必要があれば市長部局も足を運んでという話もございましたが、必要性や熟度に応じて、教育委員会が主となって進めている統合でありますけど、我々（市長部局）もしっかり学校の設置者であるという当事者意識を持って、住民の方々と相対していきたいと考えております。

記者

スマートシティ推進ビジョンの策定について、この（市民ワークショップで出た）意見を参考に市が向上させるべき市民生活の質や利便性を指標化していきたいということですが、これはどのようなことをイメージされているのでしょうか。何か数値的なものなのでしょうか。

市長

数値化できるものはなるべくわかりやすく、そのように（数値として）表していきたいと思いますが、やはり市民の皆さんの困りごと、買い物に不便である、家から出て主要な交通機関に行くまでの足が不便である、病院に行きたいが交通機関も含めて病院に行くのが不便であるなど、私も様々なご意見を伺っています。そういうもの（ご意見）を（基に）しっかりと指標化し、数値で示せるものがあれば数値で示すことも一つの方法だと思っています。とにかくわかりやすい形で指標化していきたいと思っています。

=====

記者

今ほどの質問に合わせてですが、指標化というのは具体的に見える数字ということであり、例えば新田知事が最近取り組み始められた豊かさの指標などとは少し違うということでしょうか。

市長

豊かさの指標や満足度の指標に非常に近いものがあると思います。市としては、今、様々な実証実験等も含めてやっておりますが、(例えば)何年何月何日までにグリーンスローモビリティを何十台導入するというような話はなかなか難しいと思います。しかし、今の市民の皆さんがこうありたい、こうなれば便利だ、こうなれば安全だということは、満足度などに表れてくると思います。例えばアンケートの数字として(などです。)そのような形で、満足度をどれぐらいに高めていきたい、というような数値の表し方はできると思います。そのようなことも含めて、指標を工夫していきたいと思っています

記者

具体的に、この満足度ということがあれば教えてください。

市長

一番わかりやすいのは、今お住まいの地域に今後も住みたいか、今お住まいの地域の安全性や利便性が向上したと思うか、人と人との繋がりが醸成されたと思うかなど、いろいろあると思いますが、市の職員もいろいろなアイデアを持っていますし、住民の皆さんのいろいろなアイデアも聞きながら策定していきたいと思っています。

記者

こうした取り組みは県の動きと連動しているのでしょうか。それとも何か影響を受けた部分もあるのでしょうか。

市長

それはあまり影響(を受けた)ということではありませんが、ウェルビ

ーイングと幸せ日本一というのは、まさにベクトルが一緒だと思いますので、県の指標なども十分に研究させていただきたいと思います。

=====

記者

官製談合に関することです。再発防止に向けて先般から取り組みを進められているところですが、現状の進捗具合と今後さらに何か取り組まれる予定などがあれば教えてください。

市長

市役所職員、私や幹部職員を含めてすべての職員が、倫理を含めた研修を受けることになっておりますが、そういうことの徹底によって、公務員としての自覚、あるいはその規律、法令遵守、全体の奉仕者である、市民の方を向いて奉仕するという意識を高めていきたいと思っています。

具体的に何か動きがあるのであればということではありますが、市としてはまだ、本人とも面会できていないという現状であり、どのような状況になっているか、情報を把握しておりません。情報の把握に努めたいと思いますが、現在、司法の手に委ねられているという状況でありますので、しっかりと注視していきたいと考えているところです。

=====

記者

先日、(富山)経済同友会から富山県に対して、病院の地域医療連携推進法人を設立してその再編が必要ではないかという提言がありました。その中には(富山)市民病院が入っていますし、富山市内の赤十字病院や済生会富山病院もあるかと思いますが、このことについて、市長の考えをお聞かせください。また、すでに県とのやりとり等があればお聞かせください。

市長

県立中央病院もそうですし、済生会(富山病院)、赤十字(病院)などがあり、それぞれ経営主体が違いますので、私も公的な立場で何か言える立場ではないと思いますが、(富山)市民病院も入っていましたので、設置者という立場で申し上げたいと思います。

このような急性期の病院、いわゆる大型の病院に関しては、特に富山医療圏の場合は、ほぼ一緒の時期、あと10年から20年ぐらいの間に建て替え時期も含めて見直さなければならない時期が来ていると思います。

先日の経済同友会の提言を（新聞）紙面だけでしか見ていませんが、拝察しておりますと、やはり得意分野をしっかりと集中させて、その病院の特徴や技術をどんどん上げてくことによって、それぞれの基幹病院の果たす役割を医療圏内で維持していくことが大事であるということについては、私もそのとおりだと思っています。

お医者さんや医療関係者、薬剤師や理学療法士なども含めて、このような専門職の確保というのは自治体にとっても非常に大きな課題になっております。すべての診療科を維持管理していくというのは、非常に困難な状況が予想されるわけであります。そういう中で経済同友会が医療の提言をされたということには、大きな意味があると考えておりますので、私も中身を勉強してみたいと思っています。

なお、市民病院の方からは、まだ何も聞いておりませんので、私の市長としての私見というとおかしいですが、現段階でのコメントであります。

市長

付け加えて私から1点（お伝えします）。このゴールデンウィークに向けて、本日4月28日（木）から5月1日（日）まで、第1弾フラワーカーペットが実施されます。第2弾は、5月2日（月）から5月5日（木）です。場所は、富山駅周辺です。南口駅前広場で2ヶ所、駅舎正面とMAROOT前、そして北口駅前広場の東側駅舎正面で1ヶ所、計3ヶ所で、2回に分けてフラワーカーペット事業が開催されます。

花まつさん、ジャパンフラワーコーポレーションさん、富山駅南北一体的なまちづくりプラットフォームの会長の水田さんなどが自主的にアイデアを出され、企画、運営される事業です。富山市（として）は、管理している場所を提供するということです。私も（本日午後）4時に来て少し

手伝ってほしいということですので、行って花びらを並べてきたいと思います。

来街者の方あるいは帰省される方々が富山に帰ってきて、チューリップのカーペットが駅でお出迎えすると、富山に帰ってきたなというような気持ちになりますし、そういえばチューリップフェアが開催されているから、ちょっと足を伸ばして砺波に行つてこようかということにつながりますので、このように民間の方が知恵やアイデア（を出していただき）、ああいふ場所（駅前広場等）をどんどん使つていただくことは非常に嬉しいことだと感じております。

皆さんもぜひ楽しんでいただきたいと思います。

記者

富山市ではこの春から防災危機の分野で一元化を図っており、従来は建設部や企画管理部、生活安全交通課などに分かれていたものを一元化されました。富山市は海から山まで本当に広いため、防災危機管理の対応をより切れ目なく効果的にというねらいがあると思いますが、改めて期待とねらいを一言お願いします。

市長

近年、自然災害を含めて地域で起こり得る災害というのは、激甚化していることはご承知の通りであります。大地震がなくて安全だと言われた熊本においてもあれだけの地震がありましたし、富山も地震がなくて台風が来ないという安全神話がありますが、決してそうではなく、(約)1,200平方キロメートルの広い面積の70%が山林と急傾斜地みたいな地域、中山間地であり、平野は30%しかないわけです。標高3,000メートルから水深1,000メートル、それを34キロぐらいの直線で結んでいるという急峻な地形ですので、いつどんな災害が起きても不思議ではないということもあり、この春から防災危機管理部がスタートしたわけであります。

一つは災害が起きたときの初動体制をしっかりと確立し、市民の安全安心を守ると(いうことです)。また、常日頃から、例えば富山県や国交省、国

の関係機関、消防、自衛隊、その他民間団体等も含めて、危機事象に対応するための情報共有をしておく（ということです）。今、県の防災・危機管理センターもできますが、こういう方々と常に情報共有し、大規模災害に備えていくということが一つあると思います。

加えて、やはり大事なのは富山市役所職員の危機管理意識を高めていくということだと思います。今日も午前中の庁議で今本副市長の方から、具体的な危機事象をシミュレーションして、それに対してどこの部署がどのような責任を持って、役割分担をして、どう動いていけばいいのかということをもっと掘り下げなければならないのではないかというようなこともございましたので、我々としては、しっかりと先進市の事例も踏まえながら、あるいは残念ながら大規模災害が起きてしまった地域の経験も勉強させていただきながら、早急に具体的な対応策を考えてまいりたいと思っています。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課